

## 2017 年度事業報告書

当、公益社団法人マスコミ世論研究所は、2017 年度は以下のような事業を実施した。

### 1. 草の実アカデミー（諸分野における時事問題について、マスコミおよび当事者視点による情報の普及、及び世論の健全な形成を促進する事業）

当研究所の 40 年近くに及ぶ世論運動の蓄積を受けて 2007 年末に生まれた「草の実アカデミー」は、二分化社会の中で、本来あるべきアカデミズムとジャーナリズムの視座を、圧倒的な大衆（＝草の実）の日常の声の積み重ねの中に探してみたいと考えたものである。

在野の専門家達にスポットを当て、大衆の学びの場を提供する中での「草の実の世論」の錬磨を目指し、以下の取り組みを行った。

#### [1] 講演会、セミナー等の開催

##### ① 講演会・セミナーの開催

原則月 1 回の定例開催を行い(今年度は 10 回)、延べ 315 人が参加した。各回、1～3 名の内外講師による講義（60～120 分程度）と講義内容に基づく質疑応答およびディスカッション（60 分程度）で、以下の様なテーマを扱った。

- ・ 斎藤まさし氏（選挙ボランティア）  
立候補予定者のチラシを配って懲役 2 年の判決 ～未必の故意による「黙示的共謀」～（4 月 15 日）
- ・ 寺澤有氏（ジャーナリスト）  
共謀罪と警察が作り出した覚醒剤 11 キロ密輸事件（5 月 20 日）
- ・ 林克明（ジャーナリスト）  
「市民による今後の政界再編」～共謀罪反対運動から見えるもの（6 月 17 日）
- ・ 江原春義氏（NPO 法人 R 水素ネットワーク代表理事）  
原発廃止、R 水素で日本再生→World Shift（7 月 22 日）
- ・ 荒川俊之氏（不公平な税制をただす会・事務局長）  
消費税を廃止にして財政を黒字にする方法（8 月 19 日）
- ・ 田中正道氏（森友・加計告発プロジェクト共同代表）、黒川敦彦氏（今治加計獣医学部問題を考える会共同代表）、小林哲雄氏（市民と野党をつなぐ会@東京事務局長）、斎藤まさし氏（選挙ボランティア）  
“受け皿”は、消費税廃止・原発廃止・悪法廃止で（9 月 16 日）
- ・ 黒川敦彦氏（今治加計獣医学部問題を考える会、衆院山口 4 区候補者）  
安倍晋三総理に真向勝負を挑んだ黒川敦彦が語る「もり・かけ追及・総選挙総括・今後目指す道」（11 月 18 日、第 100 回講演会）
- ・ 二本松進氏（寿司店経営）  
不当逮捕 築地警察交通取締りの罠～国賠訴訟で勝訴するまでの 9 年 1 ヶ月（12 月 16 日）
- ・ 森てるお氏（西東京市議会議員）  
3 期連続トップ当選の市議が語る地方議会と市民、そして日本（1 月 20 日）
- ・ 本間龍氏（ノンフィクション作家）  
電通と憲法改正国民投票（2 月 17 日）

※2017年11月18日、草の実アカデミー100回記念講演会を開催した。100回の区切りにふさわしく、現在の日本の政治情勢や社会情勢を分析し、今後の流れを見通す内容となった。

② 講演会・セミナーのインターネット中継と動画の保存公開

講演会やシンポジウムはインターネットで中継し、映像をアーカイブとして保存、公開してきた。2017年度はセミナー参加者やネットメディアによる放送も多く、延べ1万人程度が視聴している。

③ ホームページやメールマガジンの運営

「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」（今年度は22号を発行）を通じて、活動予定および実施した講演会等の活動内容についてタイムリーに広報し、テーマや講師陣などこれまでの実績を掲載した。また終了後の動画紹介や報告も掲載した。

[2] マスコミ情報の収集・分析

① マスコミ情報の収集・分析及び調査結果の公開

ある時事問題に関する取材・著作などにおいて際立った業績を残している方や、中心的立場にある当事者へのインタビュー（取材）を行う。その調査結果は主に講演会・セミナーの企画に反映している。今年度は、特定秘密保護法、刑事訴訟法改正、共謀罪を一連のものと捉え重点テーマにした。さらに、これまで力点をおいてこなかった経済問題に関する話題を採り入れた。

② インターネット「世論力テレビ」局

新番組の更新はしていないが、過去の調査結果の一部について番組アーカイブやデータベースの提供は継続して行っている。

過去の調査結果の一部についてはインターネット「世論力テレビ」局で、番組アーカイブやデータベースとして提供している。

また、講演会などの映像資料の撮影・配信を参加者に依頼してインターネット上に保存している。

2. 一般市民が語る戦場体験の記録・保存・継承に関する事業（戦場体験放映保存運動）

[1] 世論資料の収集、研究

① 戦場体験のインタビュー記録の収集

体験者のインタビューは最も優先度の高い活動テーマである。元兵士世代も90代以上となり新たな出会いの場は限られてきているが、各地の茶話会に来場した体験者の方や、来場者の親族の紹介など、件数は少ないながら聞き取りが続いている。90代後半の方の聞き取りもあり、最高齢は102歳だった。

また3月には9回目となる沖縄キャラバンを実施、沖縄戦や移民先での南洋戦の体験を11名から収録した。今回は当時幼少で戦中の記憶は無い方からも話を聞いたが、戦災孤児の戦後の人生など、まさしく戦中だけでは終わらない「戦争の体験」を聞くことが出来た。

課題となっている介護施設との連携は、施設側に戦争は避けるべき話題という固定観念も根強く、なかなか具体化していない。一方で、ご家族からの依頼を受けて施設入所者の聞き取りは行う事例はあり、101歳、99歳の方などの証言を記録、ご本人にもご家族にも非常に好評であった。

## ② 戦場体験の語り・継承の記録の収集

継続活動として、(ア)当時の書類や写真、(イ)体験者による記録(手記、日記、著作、絵画など)、(ウ)体験者個人、および体験者の団体(戦友会など)が発行した書籍や冊子、(エ)戦場体験の語り・継承にかかわる活動の記録(講演会の記録など)を収集している。

2017年度は全国4都市で「戦場体験キャラバン展」を開催(詳細後述)、特にその土地での寄贈品を重点的に展示し、寄贈者ご本人が説明に当たる例もあった。そのため、同様に活用されるならと、新たな資料の提供や複写の許可を受ける事が多くあった。

一方で資料を持たれていた方が亡くなられてその活用が難しくなる事例もあり、新年度は散逸を防ぐための取り組みを行いたい。

## ③ 戦後70年以降における戦場体験の継承のあり方についての検討

体験者なき戦後はいよいよ目前であり、また社会も体験者を介さない戦争の「語り」に移行していくと思われる。その中で戦場体験の継承はどうあるのが良いのか、体験者の証言記録をどう活用するのか、研究検討を重ねなければならない。

2015年度は若い世代が過去の個人の戦場体験から何を学ぶことができるのかをテーマに、2016年度は「あなたにもできる!身近な戦争体験の聞き歩き」と題してシンポジウムを開催した。茶話会形式の催し(詳細後述)や、介護施設へのアプローチなどはこれらのシンポジウムの内容も受けての実践的な試みである。

また戦災孤児や心身の後遺障害を負った体験者の聞き取り、地上戦民間被害者の戦後補償に関する講演会(詳細下記)など、70年以上経っても現在進行形のテーマについても取り組んだ。

## [2] 戦場体験資料の公開、継承(戦場体験史料館)

### ① 「戦場体験史料館・電子版」

この数年、公開用の文章の作成やご本人への確認作業はある程度進んでいる一方、Web化の作業が公開のボトルネックとなってきた。そのため2017年度は新たな担当者を置き、工事中のページやリンク切れなどは解消した。しかし公開人数は累計150名強に留まっている。

証言映像や写真、物品の掲載のためのシステム整備も遅れているため、写真などについてはtwitterを活用することで、公開の機会を増やしている。ただ体系的でなく検索もしにくいので、本来の「史料館・電子版」での公開を急ぎたい。

### ② “語り継ぐ”活動

(ア) 「沖縄の戦争展」 6月23日(金)~25日(日) 東京・浅草公会堂 展示ホール

2015年、2016年と開催した「沖縄戦展」の内容に加え、沖縄戦や移民先の南洋諸島などで戦災に遭い、戦争孤児や後遺障害を負った方々の戦中戦後を含む体験談を紹介する展示会を開催した。

また沖縄からの5名を含む8名の沖縄戦・南洋戦体験者を迎え、茶話会形式で体験を聞く場を設けた。

併せて、沖縄戦・南洋戦被害の国家賠償訴訟の弁護団長である瑞慶山茂弁護士に、地上戦民間被害者の戦後補償の経緯と問題について講演いただいた。

来場者は延べ450名を超えた。

(イ) 戦場体験者と出会う茶話会 “全国ツアー” (同時開催「戦場体験キャラバン展」)  
2016年に初めて開催した「戦場体験者と出会う茶話会」は、体験者の証言を間近に聞き、対話も出来る場として、幅広い世代に大変好評だった。そこで2017年度は下記のとおり全国4都市で茶話会を開催した。

併せて、これまでに収集してきた証言のパネルや、写真・手記・物品などの展示、全国で行われている戦争を語り継ぐ取り組みの紹介などを、開催地の特徴的な証言や収集物も活かしながら行った。

- ・8月11日(金・祝)～13日(月) エルパーク仙台 ギャラリーホール
- ・9月9日(土)～10日(日) 福岡市市民福祉プラザ 交流ひろば
- ・10月8日(日)～9日(月・祝) 京阪電車なにお橋駅 アートエリアB1(大阪市)
- ・11月24日(金)～26日(日) 浅草公会堂 展示ホール(東京都)

参加した話し手の体験者は各会場それぞれ15名、3名、11名、33名。来場者は全会場で延べ850名に達し、10代、20代の来場者も少なくない一方、新たに訪れる90代の体験者もいてその後の聞き取りにも繋がった。

また参加者によって、自らのフィールドで「茶話会方式」の行事を企画する試みが生まれており、東京大空襲戦災資料センターの催しや、沖縄への修学旅行での平和学習などで実行された。

(ウ) 展示パネルなどの貸出

越谷市の平和事業(11月14～19日)に埼玉県関係者のパネルを貸し出した。

(エ) 交歓会の開催

元兵士と戦争を知らない世代のボランティアの交流の場を3月に開催した。

### ③ マスコミなどへの情報提供

今年度は以下のような情報提供や取材協力を行った。従来のマスコミ関係者に加え、今年度は自治体や、書籍や演劇、大学生の卒論に関する問い合わせなど照会が多岐に渡った。

- ・越谷市の平和事業「越谷市政60周年記念こしがや平和フォーラム2017」に体験者を紹介
- ・共同通信 沖縄戦体験者、731部隊関係者の紹介
- ・朝日新聞特集「戦死と向き合う」に体験者2名を紹介
- ・朝日新聞12月8日関連記事に資料・情報提供
- ・東京新聞 地域の戦争を継承する取り組みを紹介
- ・仙台茶話会参加体験者について後日、東日本放送番組で番組、河北新報、朝日新聞で記事
- ・浅草茶話会参加体験者について後日、産経新聞で記事、NHK取材中
- ・NHKラジオ特集「戦争と歌」 体験者を紹介
- ・文化放送「大竹まことのゴールデンラジオ」 体験者を紹介
- ・TBSラジオ「伊集院光とラジオ」 体験者を紹介
- ・大阪大学、成城大学、東北大学の学生からの問い合わせに資料提供、体験者紹介など
- ・演劇「Fairy Melody」の同時開催イベントに体験者2名を紹介
- ・丹羽宇一郎著「戦争の大問題」に体験者4名を紹介

### ④ 戦場体験放映保存運動に関する広報活動

(ア) 「史料館つうしん」の発行

2017年6月、9月(号外)に発行した。

以上